

1 副助詞 …種々の語の後について、その語にさまざまな意味を添える働き。

【は・こそ・も・さえ・しか・でも・か・ほど・まで・ばかり等】

例 給食は楽しみだ。(区別) 君こそキャプテンにふさわしい。(強調)

私もコーヒーが欲しい。(同類) 三時間も勉強をした。(強調)

水さえあればいい。(限定) 立ち上がることをさえできなかった。(類推)

※類推⇨類似の点をもとにして、他を推しはかること。「すら」と言い換えられる。「立ち上がる」ということには「歩いたり走ったりもできない」ということが推し量れる。

家には米しかない。(限定) 初心者の私でもできる。(類推)

お茶でもしませんか。(例示) かき氷がアイスが食べたい。(選択)

三十分ほど遅れます。(程度) 三時まで待つ。(限度)

妹にまで笑われた。(類推) 今出たばかりだ。(間もない状態)

私ばかり損だ。(限定) 十分ばかり待つ。(程度)

2 終助詞 …文末について、意味を加える。

【か・かしら・の・や・ね(ねえ)・な(なあ)等】

例 これは君のペンですか。(疑問) 嘘なんかつくものか。(反語)

※反語⇨強調するために、言いたいことと反対の内容を疑問の形で述べる表現。

兄ちゃんはすごいや。(感動) コロや。はやくこい。(呼びかけ)

これは君のものだよ。(念押し) 綺麗な夕日だなあ。(感動)

1 次の各文の —線部の助詞の種類(A)と意味(B)を、それぞれ後から選び、記号で書きなさい。

もちろん他の動物にも追いつかれているだろう…。

① ペンか鉛筆を持ってきなさい。 A ① B ク

② 亀にまで追いつかれる。 A ① B オ

③ こんな服恥ずかしいや。 A ② B イ

④ 君さえいれば満足だ。 A ① B カ

⑤ 僕はいつも真剣だ。 A ① B キ

⑥ こんなにも宿題がある。 A ① B キ

⑦ さっき起きたばかりです。 A ① B エ

⑧ 一体どうしろというのか。 A ② B ア

A ① 副助詞 ② 終助詞  
B 【ア 反語 イ 感動 ウ 区別 エ 間もない状態 オ 類推 カ 限定 キ 強調 ク 選択】

2 次の文の —線部「でも」とはたらきが同じものを後のア〜エより一つ選び、記号に○を書きなさい。

類推・副助詞

・私でも解ける問題なのだから、山口さんなら絶対に解ける。

だいたいのこと柄・副助詞

ア ドライブにでも行こうよ。

接続詞

イ 雪だ。でも外に出て遊びたい。

逆接・接続助詞

ウ 呼んでも来ない兄。

エ 最下位でも賞品がもらえる。

